

那覇自治会連合会研修会

今回はうるま市地区自治会との合同研修会を恩納村にある沖縄科学技術大学院大学で開催し、同大学の説明会を受けた。

うるま市では、市を63地区に分け、地区ごとに自治会を設置している。自治会では各々が自由な組織運営をしており、人事や行事等については評議員会や総会で決めている。また、市と



連携して広報誌を地区の全所帯へ配布するなど、行政の一環を担っている。那覇市の自治会とは異なる位置付けである。

大学院大学では施設見学とセミナー会場での講演会形式の説明会が行われ同大学の設立趣旨や経

緯、現在の研究状況や将来のビジョンについての説明があり、そのあと質疑応答が行われた。

近い将来、人類の為の新しい発見が同大学の研究機関から発表され、ノーベル賞受賞者が多数輩出されることを期待したい。



龍宮神



大世(ウブユー)に豊穡をもたらし、現生の島人の願望を満たしてくれる神が、海の彼方にあるニライカナイの龍宮にいとと言われる龍宮神だ。航海の安全や大漁祈願、旅の無事を祈願する為、この聖地の祠(ホコラ)に祭られている。

国場集落沿いの国場川は7箇所船又着(シンヌチ

キ)があった事や川の洪水氾濫など昔から川やその河口に広がる広大な海との関わりを知ることができる場所だ。1623年に琉球の儀間真常が中国からサトウキビの植え付けと黒糖の製造を広めた。当地域でも植え付けと製造が頻繁に行われ、製糖工場(サーターヤ)7箇所の内6箇所が川沿いにあり泊港に運搬されていた。

三班の屋号宮里(ナージャトウ)の嘉数智哲さんによれば墓の中に石に書かれた碑文があるそうで、専門家に鑑定依頼したと

ころ祖先の唐旅(トウタビ)についての文言とのことである。その他にも唐旅の話はちらほらある。

国場集落では、古くから川と海に関わりがあることから、龍宮神信仰と崇拝を、今でも見ることができる。



第3回那覇警察署協議会 12月9日(土)

第3回那覇警察署協議会が那覇市民体育館会議室で開催された。

那覇市警察署長始め、各部所長総勢18名と協議委員12名、国場地区周辺の自治会長が参加して飲酒絡みの事件・事故の状況や警察

への意見・要望等について協議・質疑が行われた。



家族信託とは?

家族がお亡くなりになり、その方の預金が凍結されて払い戻しができないことで、金銭面に支障をきたした話をよく耳にする。お亡くなりになった方の実印や通帳印の使用もできなくなる。

このようなことを回避できるのが家族信託である。

新しい法律で、生前にある事を家族等に特定して任す事(信託)について公正証書で



作成することで、指名された方は死亡した本人同様に法律行為ができるようになる制度である。

未来は明るい 国連の税制導入で



近年のグローバル化の進展が人類の一層の繁栄を可能にする一方で、国際社会

は人権侵害、貧困、感染症、犯罪、環境、人口、難民といった問題への対応に迫られている。このような状況において、唯一の普遍的かつ包括的な機関が国連(国際連合)だ。

どんな社会でも戦争が起きたら尊い命を奪い、基本的人権が奪われる。

国家間の物や人の移

動時に国連税を課することで国連の税収を増やし、世界各国に国連事務所を設置し国連軍を常駐させることで人権擁護、環境保護、紛争の解決や国際法尊守の指導と監視を行うことができる。

国連の税制創設により実行力を伴う権力組織のもとで、戦争のない平和な時代がやって来る。未来は明るい。